

は、本人の体調不良や異動によるものであったが、「現場に帰ると現実の問題に引き戻される」「活動の方向性の共有が難しく、壁を感じている」などの意見もあった。

6. 研修で構築されたネットワークについて

参加者とのネットワークについて、「大いに活かすことができた」「少し活かすことが出来た」を合わせて6割が活かすことができたと回答した。具体的には、事業実施等に関する情報交換が多く、他にも災害支援現場での再会と円滑な引き継ぎや里帰り先への支援依頼などであった。

7. 受講生による全般的な評価

修了者からの評価は高かった。「研修参加はモチベーションが上がるとともに、現場で取り組めるヒントとなる情報をたくさん受け取ることが出来た」等の意見が多く寄せられた。さらに「研修をこれまでに具体的に生かすことが出来なかったが、今年度より管理的立場になることができ、活動に活かしていきたい。」等の意見もあり、修了生の今後に期待したい。

8. まとめ

今回の調査では、派遣元及び受講者のほとんどが現在の業務に役立っていると回答し、継続派遣の希望も多く、評価は高いと言える。この理由には、受講生が管理者になるための研修であるという意識のもと、明確な受講動機があることが大きいと考えられる。さらに、小グループによる演習の時間数を多くとり、課題や今後の活動の展開についてお互いに意見交換を行い、自分の考えや学びを表現することにより、研修の学びを自分のものとして体得できることが現場での活用に繋がり、高い評価を得られていると考えられる。

(2) 公衆栄養研修

公衆栄養研修修了生 66 名 (H18 : 36 名、H19 : 30 名) の回収率は研修生 78.8 %、派遣元 65.2 % である。

「研修の役立ち」について研修生、派遣元ともに 9 割が「役に立っている」と回答し、研修生に派遣元以上の「大変役に立っている (5 割)」割合が多い。内容として「派遣元は県や各市町村の行政栄養士に伝達講習を行い、栄養士全体の人材育成、市町村支援に役立っている、リーダー役を果たしている、健康づくりのコーディネーターとして活躍している、データを読み込む公衆栄養診断に基づいた公衆栄養・事業計画の企画・評価の面で任せられる、自信とやる気で率先して学んだことを活かした

業務をこなしている、他県栄養士仲間のネットワークで情報交換を行っている、他職員のスキルアップにつながっている」などである。研修修了生も同様の意見が多く、「演習で苦しんだことが実践面に役立っている、一層やる気が出た、楽しく、効率的に仕事ができている、情報交換が出来る仲間作りの喜び等」であり、本研修の目的に沿った回答が得られた。

「役に立っていない」、「どちらともいえない」の多くは研修後に病院勤務になったものであるが、病院勤務や保健年金課に転勤しても研修での学びが大変役立っているとの意見も多い。

今後の本研修への職員派遣について9割が「ぜひ派遣したい(6割)、派遣したい」、研修修了生も9割が「強く勧めたい(6割)、勧めたい」と回答している。派遣元の意見に勤務年数別の研修、テーマを絞った短い研修、インターネット活用の研修希望があった。研修修了生の意見でも予算や業務を考慮した期間短縮の希望、フォローアップ研修やステップアップ研修を希望する意見があった。反面1ヶ月(26日)の時間割は基本から始まり、積み重ねの内容、また演習が多いため理解しやすかった、集中することが出来た等現状を評価する意見も多い。

現在の職務遂行に「たいへん役立っている」は6割、「役立っている」を加えると9割強、「他の人に強く勧めたい」6割、「勧めたい」を加えると9割強である。強化項目として、現在の地域診断、地域栄養計画・評価に同意する意見は多いものの、危機管理、コーチング、カウンセリング、他職種との連携もあがった。国民・県民健康栄養調査に関する研修希望意見もあり、H20年度から開始予定である。

[短期的提案]

- ①派遣元、研修生の意見を受けた研修内容の検討と派遣元に研修報告の場の提供の依頼の続行。
- ③長期課程合臨の如く、多職種との連携講義やコーチングやカウンセリング講義の検討。

[長期的提案]

- ① ステップアップ研修、2週間単位で前期、後期に分けた研修、経験数別の研修、eラーニングを活用した研修など研修期間や研修スタイルについては、派遣元、研修生、科学院間でキャッチボールをしながら検討。

(3) 食肉衛生検査研修

1. 回収割合

平成18年度と19年度の受講生は75名であり、派遣元自治体の数は51である。回答は研修受講生から57名(回収割合76%)派遣元自治体から46